



長谷川 光一 [愛知県]

『望郷』

命はだれが造り どうして尽きるのだろう
原子の集合体なのに笑い、泣き、怒るのか
星を眺め、行く末を思う



三島 かくえ [長野県]

『こんにちは』

【挑戦】

今までとは異なったジャンルで新しい作風の可能性を見つけたくて「ガラス絵」に挑戦した。どう描いたらよいか何もわからず、ネットで技法書を検索してようやく佐藤泰生著「技法と実際」を手に入れた。早速描き始めたが、細かい手順はわからないので自己流で描き色を塗っていくと、それなりの面白い作品になった。描写力のない私でも、その稚拙さが偶然性や素朴さに助けられてとても楽しいと感じた。ガラスに着色するので透明感のある美しい色彩になり、色彩の魔術師デュフィカシャガールになった気分になれる。まだ数枚描いただけだが、「ガラス絵」の魅力に取りつかれた。

山本 秀樹 [愛知県]



『来る船来る船に一つの島 一放哉の句より』

【放哉の句を描く2】

自由律俳人尾崎放哉の作句をモチーフ（動機）にしたグループ展『尾崎放哉との対峙展』に参加している。
今回は「来る船来る船に一つの島」という一句が共通テーマであった。瀬戸内海の島の多さを船の出入りに託して詠んだ一句である。その情景を訪れたことのある小豆島や地元三河湾をヒントに描いた一点である。放哉の句には作品にインパクトを与えてくれる力がある。

第15回 EACH展

Each and all

春陽会会員



■後援 半田市教育委員会

■2023年5月17日(水)~22日(月) ■アート空間 OSADA

〒475-0903
愛知県半田市出口町1-212-2 TEL0569-22-7368
名鉄(河和線・内海線)住吉町駅下車、西に徒歩5分

AM11:00~PM5:00(最終日はPM4:00まで)

【出品者】

大柿 了一 奥山 哲三 長田 昇 長田 文実香 木村 順一 坂井 和子
桜井 敬子 成實 久仁子 長谷川 光一 三島 かくえ 山本 秀樹

第15回 EACH展開催へのご挨拶

今年は、100回記念春陽展・開催の年です。15年前に会員有志で、先人の意思を尊重し、100回展に向け意識を高め様と、EACH展を開催。

三年前でしたか、コロナ緊急事態宣言で、急遽画廊会場での開催は無理と判断。とはいえコロナ如きで中止は不本意。そこで、仲間の総意で、紙上EACH展として開催。コロナで来廊不可でも、紙上宅配で有っても緊急時。作品鑑賞とメッセージは可能と判断。お陰で多くの方々から、いきな計らいと、好感の便りが多く届きました。二年目から画廊開催も展案内は、同じ計らいで継続です。コロナのお陰で得たEACH展文化として定着です。

まずはEACH展開催ご挨拶まで

EACH展会員一同

